

# 秋田市の血液透析患者の実態調査（第一報） －通院・介護保険の現状と課題－

酒井志保<sup>1)</sup>、志摩麗子<sup>2)</sup>、山口貴美子<sup>1)</sup>、山岸 剛<sup>3)</sup>、倉田みき子<sup>4)</sup>

松橋満弥<sup>5)</sup>、福岡由紀子<sup>5)</sup>、市川晋一<sup>6)</sup>、立木 裕<sup>7)</sup>

日本赤十字秋田短期大学看護学科<sup>1)</sup>、同介護福祉学科<sup>2)</sup>

秋田赤十字病院内科<sup>3)</sup>、同腎センター<sup>4)</sup>

市立秋田総合病院人工透析室<sup>5)</sup>、西明寺診療所<sup>6)</sup>、秋田大学医学部<sup>7)</sup>

## A Study of Hemodialysis Patients and their needs in Akita City (1st. Report) -attendance and long-term care insurance-

Shiho Sakai, Reiko Shima, Tomiko Yamaguchi, Tsuyoshi Yamagishi, Mikiko Kurata,

Michiya Matsuhashi, Yukiko Fukuoka, Sinichi Ichikawa, Yutaka Tachiki

秋田市内で慢性腎不全のため血液透析を受けている患者（以下、透析患者）を対象に実態調査し、必要とされる医療・福祉サービスを検討した。

秋田市内の9病院、362人の透析患者の調査結果を単純集計した後、一部  $\chi^2$  検定した。対象の属性は、男性203人（56.1%）、女性159人（43.9%）、平均61（ $\pm 12$ ）歳、透析年数は平均6年であった。

### <1. 通院>

通院方法は、「自動車」が218人（59.0%）で最も多く、「タクシー」72人（19.9%）も含め、約8割が車を利用していた。さらに65歳未満・以上、男性・女性の4つのグループで、「自動車」、「タクシー」、「その他」の交通手段で比較すると65歳未満男性は「自動車」が多く、他のグループはこれに対して「タクシー」の割合が多かった（p<.01）（図1）。

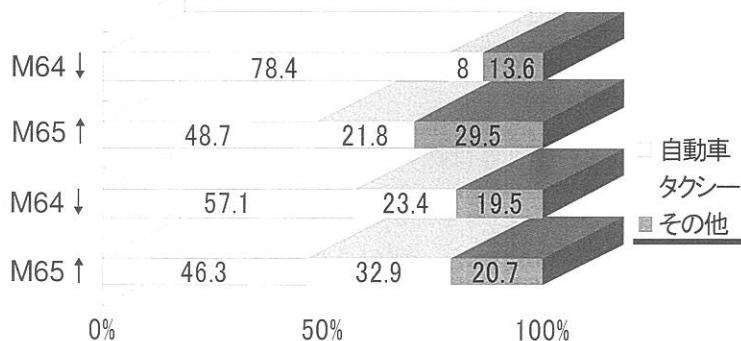


図1 グループ別 主な通院方法

通院時に付きそいがいる人は全体の28.7%であった。これを前述の4グループで比較すると、65歳未満では8割以上が1人で通院していたが65歳以上では約半数に付きそいがいた( $p<.01$ ) (図2)。特に65歳以上の「自動車」通院では約半数と、他の通院方法よりも付きそいが多かった。付きそい人は「夫・妻」45人、次いで「子」31人の順で、大半が家族であった(図3)。

1ヶ月の通院費は「1万円未満」84人(24.4%)、「5千円未満」「2万円未満」が各66人(19.2%)の順に多かった(図4)。

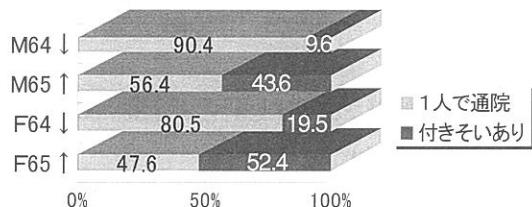


図2 グループ別 付きそいの状況

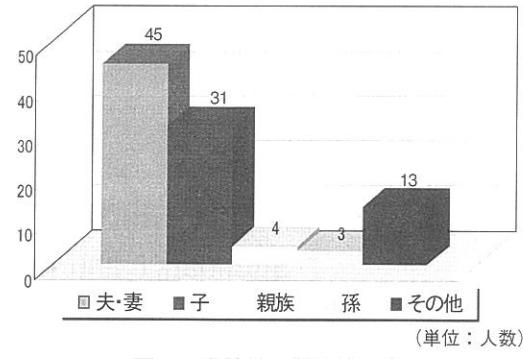


図3 通院時 付きそい人 (単位: 人数)

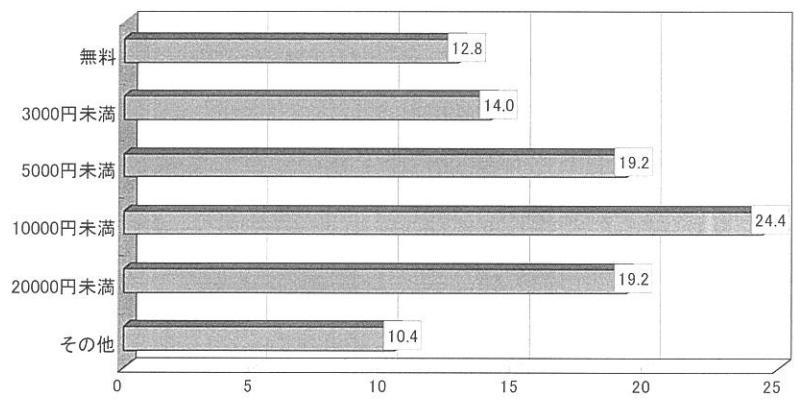


図4 通院費 (1ヶ月)

## <2. 医療・介護サービス>

主な介護者は、「夫・妻」197人が最も多く、次いで「子」110人で、通院時に付きそい人とはほぼ同様の結果であった。「ボランティア」を9人があげていた(図5)。

『今後受けたい医療・福祉サービス』がある人は100人(41.2%)で、ない人は143人(58.8%)であった。

『今後受けたい職種別サービス』の内容は医療では「医師のさらなる指導」44人、「看護婦(士)のさらなる指導」34人、「栄養士の指導」31人、「臨床工学技士のさらなる指導」23人の順に多く、日頃関わっている医療者が目立った。一方、「ケアマネージャーの相談」を19人があげていた(図6)。

『過去6ヶ月で受けた医療・福祉サービス／今後受けたい医療・福祉サービス』は、いずれのサービスも過去に受けた人数を上回って希望者が多かった。『過去6ヶ月で受けた医療・福祉サ

ービス』の内容は、「訪問介護（身体援助／生活援助）」14人、「デイケア」「ボランティア」が各5人の順であった。『今後受けたい医療・福祉サービス』は「訪問介護（身体援助／生活援助）」24人、「ボランティアによる援助」22人、「配食（サービス）」21人の順であった（図7）。

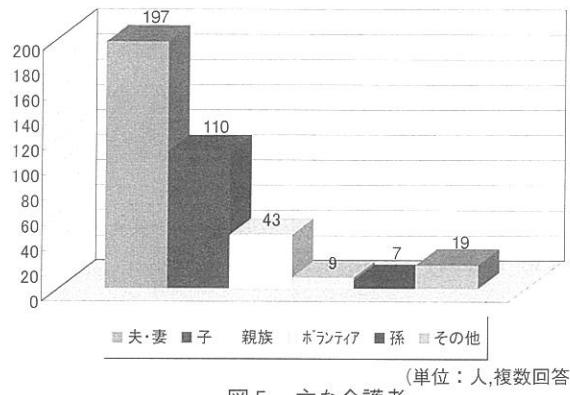


図5 主な介護者

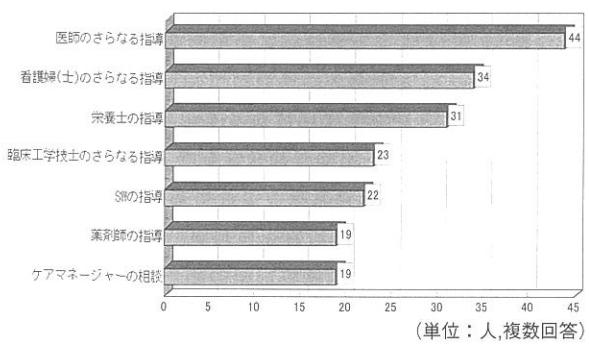


図6 今後受けたい職種別サービス

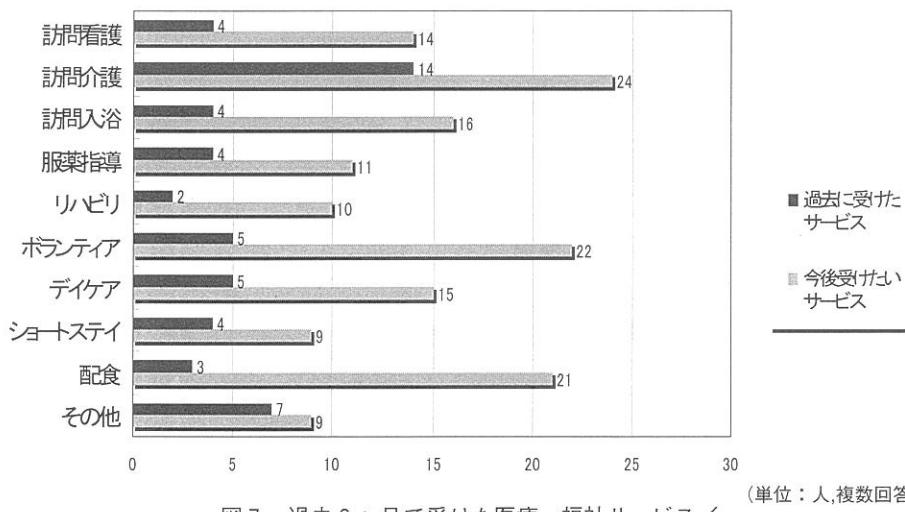


図7 過去6ヶ月で受けた医療・福祉サービス／今後受けたい医療・福祉サービス

以上から、透析患者の通院時の付きそいや介護者は家族が大半で、その負担が大きいと考えられた。今後、ますます透析患者の増加・高齢化が予測される。通院費や家族の負担を減らすためには、社会資源の活用など社会福祉的視点が重要である。

しかし、現状では透析患者の福祉サービスの利用は決して多くなく、透析患者が自発的にサービスを要望することは困難であると推察された。したがって、身近に関わっている医療者が積極的にアプローチしていく必要がある。さらに、透析患者に種々のサービスの希望があったことから、個別のニーズに適した対応が可能であるよう援助することが重要である。